

平成27年度「若葉区地域活性化支援事業」評価シート

団体名： 千葉県認知症ケア専門士会千葉地区

事業名称： 笑いカフェと認知症の地域啓発事業

		評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
1		計画どおり事業が実施できたか	B	・中学校での協議、社協での講座、笑いカフェの開催などを計画どおりに開催するとともに、計画を上回る事業として、認知症サポーター養成講座を開催した。
				評価の基準
				A：計画を上回って実施できた B：計画どおり実施できた C：計画どおりに実施できなかった
2	実施した事業の評価	事業目的が達成されたか、または、実施した事業の成果が事業目的の達成につながっているか	A	・認知症の人やその家族等を対象とした笑いカフェを定期的で開催するとともに、認知症講座等を通じて認知症に対する理解を深める事業を行っており、成果を上げている。
				評価の基準（ア事業目的が単年度 イ事業目的が複数年度）
				A：ア 申請時に掲げた目的を達成することができた イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩として十分な内容であった B：ア 一定の成果は上がったが目的の達成まであと一歩だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには課題があるが、改善は可能である C：ア 事業成果は事業目的の達成に不十分だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには不十分であり、事業目的を達成するためには相当の努力が必要である
3		事業の成果は、地域課題の解決や地域の活性化といった制度の目的に寄与するものであったか	A	・認知症の人の支え合いや、認知症ケアに対する啓発活動を行っており、地域課題解決に関する寄与度は極めて高い。
				評価の基準
				A：制度の目的に寄与するものであった B：制度の方向性とは一致していたが、寄与度は低かった C：制度の方向性とは一致していなかった

		評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
4	団体の活動に対する評価	事業の実施をきっかけとして、団体の活動を周知するためのPRが積極的に行われたか	A	・フリーペーパーへの折込みや、チラシのポスティング、事務所等への配布など、様々な手段を通じて積極的なPRが行われている。
				評価の基準
				A：様々な媒体を活用した積極的なPRが行われた。 B：知り合いを介してPRが行われるなど、小規模な周知が行われた。 C：PRをあまり行わず、外部にアピールする効果は小さかった
5	団体の活動に対する評価	団体の活性化が進んだか。	B	・事業の実施にあたって関係団体と連携しているほか、中学校や社協への協力、関係団体・ボランティアとの連携・協力により、事業が行われている。
				評価の基準
				A：事業の実施をきっかけにして、外部との交流に向けた積極的な動きがあり、具体的な成果（例えば、団体構成員の増加、新たな団体間の連携、他団体に対する事業成果・ノウハウの供与、新規事業への着手、実施など）も見られた。 B：事業の実施をきっかけとして外部との交流を行った、もしくは外部との交流への意欲はあったが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった。 C：外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった。
6	団体の活動に対する評価	団体に、事業もしくは団体としての活動を発展、継続させるための動きがあるか	A	・笑いカフェをはじめ、認知症サポーター養成講座、植草大学での講義など、具体的に実施することが予定されている。
				評価の基準
				A：具体的な計画を立てている。 B：具体的ではないが、継続、発展に向けた計画がある。 C：現在のところ、事業、活動を継続する予定がない。

○上の表に書いた事項のほかに「地域づくり」、「団体の成長」、「市や区との連携」「まちづくり活動の人材育成」という視点で事業を振り返ったときに、特に記載すべき事項